

市長記者会見記録

日時：2026年7月8日（水）14時00分～14時19分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《大都市制度について》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入ります。

まずは、幹事社様からよろしくお願いいたします。

【朝日（幹事社）】 7月幹事の朝日新聞です。よろしくお願いします。

【市長】 お願いします。

【朝日（幹事社）】 この週末なんですけれども、週末の10日なんです、特別市に関して、3政令市長と正副議長の懇談会が入っていると思います。当日の議論の方向性と、川崎市がそこで何を訴えていきたいか、一番力を入れたいところを教えてください。

【市長】 まず9人で、3市の行政と議会がしっかりと今の現状について、地方制度調査会での議論ですとか、今指定都市市長会のプロジェクトでやっている内容を共通認識をしっかりと持って、議会としての取組ですとか、議会と行政が一体となって特別市実現のために取り組んでいこうという方向性を改めて現状と今後のことについて確認していきたいと思っております。

【朝日（幹事社）】 その中で、川崎市としてこれを特に訴えていきたいという部分は何かありますか。

【市長】 川崎市としてというよりも、向いている方向は皆さん一緒ですので、具体的にどういうふうこれから3市で取り組んでいくということを議論していくことになるかと思えます。

【朝日（幹事社）】 カウンターである県知事ですけれども、我々から見ているとかたくな姿勢のように見受けます。知事をテーブルに着かせる、着いてもらう、そのための打ち手というものは何か考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 どういうおつもりなのかよく分かりませんが、私たちは冷静な議論を求めている、制度の議論自体を逃げるというのは誰も理解しないのではないかなと

思っています。市民、県民から見ても、普通に正々堂々とお話しすればいいんじゃないですかと思うのが普通の市民、県民の感情じゃないかと思いますので、ぜひそこには応じていただきたいなと思っています。

【朝日（幹事社）】 膠着状態のようにも見えるんですけども、ここをブレイクするための何かというのはイメージがあるのか、それともなかなか難しいなと思われているのか。

【市長】 僕たちもあまり感情的になりたくないものがありますけれども、これは本当に運動論ではないので、制度をしっかりと議論しましょうということに対して、いろんな変化球を言ってもしょうがないのかなという、もう正々堂々とやりましょうということだけなので、皆さんから見たら、どっちが正しいかなということを冷静に見ていただくということなんじゃないかなと思います。

【朝日（幹事社）】 さきの会見でもあったんですけども、知事の発言の根拠、こういうことをなかなか示してもらえない、また、事務レベルでのいろんな照会に関しても、なかなか答えが出てこないことが多いというお話があったと思うんですが、ならば、逆に3政令市のほうから何らかシミュレーションを示すとか、積算をやってその根拠を示していくとか、そういうこちら側からのアプローチというのは何かお考えでしょうか。

【市長】 私たちからは、例えば経済波及効果ですとか、川崎市だけではないんですよとか、あるいは特別市になろうとしているところだけが潤う制度ではないということなどを数値をもってお示しさせていただいておりますので、それについてもぜひ議論したいなと思っていますし、どこが違うと思うのかとか、そういう意味では私どもは結構お伝えしていると思いますが、私も前回、事務レベルでも進んでないという話を申し上げましたけれども、一部数年前、やり取りしたところで一定のお答えはいただいているということも後で聞きましたけれども。いずれにしても、現時点でしっかりと事実に基づいたお話をすることが大事なんじゃないかなと思いますね。

【朝日（幹事社）】 私もこの4月に川崎市に参りまして、どこで話をしても、特別市に関して川崎市が一番熱心だと、福田市長が引っ張っていると、どこに行ってもそういう話が出るんですけども、川崎市が特に熱心、市長が特に力を入れているという理由、もしくは、いや、そうじゃなくて、そういうつもりはないんだろうけれども、他者から見るとそう見えてしまう。県内、ほかの横浜とかとの違いはどの辺にあるとお考えでしょうか。

【市長】 市行政ということだけじゃなくて、私なりに日本の自治制度をしっかりと変

えていかなければという危機感の現れということで取り組んできております。今期ではなくて、前期の3期目の私の選挙の最も大事な、いろんな施策、事業の根底にあること、制度を変えていかないと持続可能ではないなという思いが強いものですから。ただ、これは100年前から横浜市はずっと取り組んできて、日本一の最大の都市横浜がこの議論をリードしてきたということがございますので、引き続き横浜市さんとも、あるいは相模原とも一緒に、この制度改革については全力を挙げていきたいと思っています。

【朝日（幹事社）】 言い換えると、選ばれる都市になるにはどうしていくべきなのかというような話も少し絡んでくるかと思うんですが、よく巷間、「多摩川格差」なる言葉も言われますが、まさに多摩川を挟んだ戦闘正面はまさに川崎市になるわけですが、それでも、「多摩川格差」という言葉は意識されるものなのでしょうか。

【市長】 確かに、東京都と周りの3県の格差は知事さん同士の中でも議論されておりますけれども、これは黒岩知事もたしかおっしゃっていたと思いますが、私、伸びているところをたたいても何にも意味がないと思っているんですよね。ゆえに、多極分散で、東京だけじゃない核をしっかり全国に強い都市をつくっていくことが日本の成長につながるというそういう思いでいますので、そういった意味では、何となく国民感情的ではありがちな、強いものをたたいて何とか分散させようみたいな議論は、そういうやり方は日本を小さくしていただけたと、弱くさせるだけだと思っています。その議論にあまり、東京一極集中は一極集中であることは間違いないんですけれども、そこでとんでもない、とんでもないという話をやっていくのには私はちょっと違和感があって、それよりも、どうやったら東京と伍するような都市をつくっていくかと。それも首都圏だけではなくということが僕は大事なんじゃないかと思っています。

【朝日（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

《富川市訪問について》

【時事（幹事社）】 同じく7月幹事社の時事通信社です。よろしくお願いします。先週ですか、韓国の富川市に海外出張に行かれまして、いろんな視察とかされましたけれども、富川市のインフラの何とかセンターとかいろいろあったと思うんですけれども、これは進んでいるなと思って、参考にしたいなと思われた部分はございますでしょうか。

【市長】 ありますね。今回の視察は大変勉強になりました。ただ都市間交流をやっているということじゃなくて、やはり富川市と川崎市って地政学的にも非常によく似ている都市なものですから、学ぶべきことはたくさんありました。1つは、見学させ

ていただいた、統合情報センターといいましたかね、という形で、交通渋滞、交通対策ですとか、あるいは人々の安全を守るような防犯、防災、こういったものの情報を一元的に、防犯カメラというのはそれぞれ多目的にあるものを全部統合させて、市民の安全・安心を守っていくという取組は非常に進んでいて、情報の取扱いについては、その国々によって法律体系が違うので、一概に私たちができるかというところはあると思いますが、ただ情報を統合して市民に還元していく仕組みはすごく進んでいるなと思いましたし、私が参考にしたかった暑熱対策みたいなのも非常に参考になるところもあって、ぜひ川崎でもやれることがあればやっていきたいなみたいなことを含めて、非常に有意義でした。議長も、あるいは商工会議所の会頭も一緒に見ていただいたというのは非常に大きいと思います。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。インフラとか、特別市になったらできるという感じでしょうか。

【市長】 いや、そういう……。

【時事（幹事社）】 それはないですか。

【市長】 確かに警察との連携というのが非常に密なので、韓国も日本の行政体と非常に似ているので、京畿道が警察権を持っているんですけども、警察の情報と富川市、市の行政レベルでの情報共有の仕組みが、連携が非常にうまくできているなと感じたところです。ですから、特に交通行政みたいなのは、交通警察みたいなところは、本当に基礎自治体で持つというか、警察と一体となっていく、特別市ができると、その辺りも非常に市民の皆さんに還元できるということは強烈に思いましたね。

ある意味、富川市も本市の特別市の動きを非常に注視していらっしゃって、市長も特別市のことについて関心を持っておられました。隣の仁川市は特別市になっておりますから、そういった意味では、いろいろお互いに刺激し合うような、そういった会話にはつながりました。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 それでは、幹事社様のほか、御質問される場合には挙手をお願いいたします。御質問よろしいでしょうか。

t v k さん、お願いします。

《小学生の「朝の居場所づくり」等について》

【t v k】 t v k です。昨日から川崎市の小学校で朝の居場所づくりが始まりまして、そのことについての所感をお聞かせください。

【市長】 昨年の秋の私の公約の一つでもあります。市内、まず3か所からではあり

ましたけれども、スピード感を持って取り組んでいただいた教育委員会と、それから、何よりも地元の皆さんに心から感謝申し上げたいと思います。まだ私、現場を見れていないんですけれども、非常に好評だという声もいただいている、関心の高さを感じているところです。公約どおり、11年度には全ての小学校で開始できるように、なるべく前倒しでできるように取組を進めていきたいと思っています。

【t v k】 続きまして、もう一つ、t v kなのですが、子供にまつわることでもう一つございまして、これから夏休みが始まりまして、夏休みになって、子供たちがいわゆるトクリュウ型の犯罪に巻き込まれる可能性も高くなり、先般、相模原市では教育委員会主催で講義などが行われました。そういった犯罪に巻き込まれないようなことについて、市が主導で抑止に向けて取組など、そういった動きはございますでしょうか。

【市長】 教育委員会のほうで、あの事件が起きた後でありますけれども、取組をそれぞれ今やっていることもありますし、追加的に取り組むということも聞いておりますので、その辺りをしっかり確認して取り組んでいきたいと思っています。

【t v k】 以上です。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

神奈川新聞さん。

《「KAWASAKI NATURE LOOPグローバルプラットフォーム」について》

【神奈川】 神奈川新聞です。今日、川崎市と川崎市に事業所がある企業で、KAWASAKI NATURE LOOPグローバルプラットフォームを設立されて、第1回の会議もあったと思うんですけど、その会議に参加されて感じたことであつたりとかを教えてくださいませんか。

【市長】 あの後、有識者ですとか学識者の皆さんからも御講演いただいて、その後意見交換をしましたけれども、皆さん非常に積極的に御発言をいただいて、どうやってこのローカルな基準づくり、ローカルで取り組むんですけども、これが世界標準となっていくような、そういうスタンダードをつくっていくことに対して、皆さん、非常に意気込み高く、いろんな御発言をいただきました。まだまだもやもやしているところも、どうやったらこれができるんだろうかということを思っておられることが多いので、みんな徹底的にもやもや感を出して、早くルールをつくろうという形のかなり突っ込んだ話ができたので、第1回目の会議としては、私は十二分な成果が得られたと思いますし、第2回目は11月にもう既に設定しているということですので、さらにつなげていきたいなと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。このプラットフォームの設立なんですけど、市民の目線からすると、どういったことをやっているのかとか、生物多様性が見える化ってどういうこと？ みたいと思う市民の方もいると思うんですけども、そういったところへの市民への理解というところはどういうふうに感じていらっしゃるでしょうか。

【市長】 ネイチャーポジティブな話って、世の中としてもあまり取り上げられてこなかったテーマだと思うんですけども、持続可能な社会をつくるためには大変重要な要素の一つであります。ここの社会的な自然の基盤がなければ、私たちの生活が一切成り立っていかないということをどのように感覚的に、あるいは定量的に伝えていくのかはなかなか難しい課題でありますけれども、その意味が伝わるようにやっていきたいなと思っています。

例えば、先ほどの会議で私も発言したんですけども、緑の効能といってもすごく多面的で、市民の皆さんからすると、きれいな緑の景観があるということに対しては理解はあると思うんですけども、それ以外のものはどういう効果があるのかとかということを、客観的なデータに基づいて評価されたことがあまりないと思うんです。ですから、そこにこそまさに価値があって、例えば街路樹なんかも、ある面、都市の中の緑としては非常に大切なものですが、それをコストと見てしまえば非常に厄介なものに見えてしまうというように、人の見方によって随分と違ってくるものです。ですから、そこをちゃんと評価して、誰にとっても、なるほど、こういうことが都市の中に緑を増やしていったら、例えば、産業と自然が共生していくようなことになるんだ、結果的に私たちの生活のウェルビーイングにつながっていくんだという、そういったところにまで落とし込めるようにやっていきたいと思っています。

皆さんの理解を、市民の皆さんがそうだねというところまでは若干時間がかかると思っています。でも既に、市民の皆さんでやっておられて、もうネイチャーポジティブ、具現化、もう具体に取り組んでいただいている皆さんは結構多いので、今までの活動もしっかりと適正に評価する、モニタリングしていくことも併せてやっていかなければならないと思っています。その中で理解を増やしていきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載して

います。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

―― 了 ――